

作家 立松和平 氏を迎え 第47回文化講演会



南極の写真を説明しながら講演する立松氏

毎年、秋の恒例となった文化講演会(主催・角館図書館後援会)が10月18日、角館樺細工伝承館を会場に開催され約120人が参加しました。

この講演会は、芥川賞作家で仙北市新潮社記念文学館の名誉館長の高井有一氏の紹介で、毎年著名な作家等を招いて開催しているもので、47回目となる今年は、国内外を問わず旺盛に旅する行動派作家で、近年自然環境問題にも積極的に取り組んでいる立松和平氏を講師に迎え、「南極で考えたこと」と題した講演が行われました。

立松氏は今年、南極観測50周年記念事業として南極を訪れ、地球の歴史がわかる人間の手が触れていない大自然「南極」を体験して感じたこととして「人間は本当にちっぽけで、人間の知恵では、まだまだ地球のことはわからない。何もわからないということがわかった」と話し、地球の歴史を考えると決して地球は生物たちにやさしくなかった、厳しい環境の変化で、ある生物は

絶滅し、新しい生物が誕生するということを繰り返し、万物は流転していると話し、「人間は人間として生きるべきで、わからないもの(地球)を破壊してはいけない」と訴えていました。

浅利香津代さんが神代中学校で特別講演

10月7日、神代中学校で舞台や映画、ドラマなどさまざまな分野で活躍する俳優の浅利香津代さん(秋田市出身)を講師に、「ふるさとと私」という演題で特別講演会が開催されました。

この講演会は、神代中学校創立60周年記念事業の一環として行われたもので、当日は、浅利さんが甘えてわがままに育てられた幼少時代から、演劇という夢をつかむために上京し、秋田弁で苦労したエピソードを聞かせてくれたほか、生徒へ「目標、夢をもって努力すれば夢は叶う」と激励しました。また、「地域の祭りをしている大人を見ていると、いつか参加したくなり、その街や人が恋しくなり、ふるさとへ帰りたいと思える」と、ふるさとを思う浅利さんの講演となりました。



講演する浅利さん

平成19年度仙北市ふるさと景観賞

11月16日、角館庁舎で「仙北市ふるさと景観賞」の表彰式が行われました。

この「仙北市ふるさと景観賞」は、愛着と親しみと誇りの持てる美しい市を創出するために、良好な景観を形成している建築物や優れた景観づくりに貢献している個人・団体等を表彰するものです。

6月から募集したところ、建築物3件、景観形成活動1件の応募総数4件から、仙北市歴史的景観審議会による審査の結果、建築物3件が受賞し、それぞれの施主、設計者、施工者が表彰されました。



アート&クラフト香月

歴史的な外観を有するとともに、近年、派手な広告物の設置が課題となっている中、表通りには広告を出さず、景観に配慮していることが高く評価される。



稲庭饅飩 文中

本地域では数少ない石積みを採用した蔵で、昔ながらの外観を極力変えず現代に復活させたデザインである。歴史的な建物が消失する中、その保存・活用が景観賞にふさわしい。



金谷呉服店

外町の本店(おおだな)呉服店の様式を有し、現代風の外観を有する店舗が多い中、店主の外町の文化・景観の保存に対する意気込みが感じられ高く評価される。